

IPMUに最高のS評価－WPI中間評価結果発表される

IPMUを含む5つのWPI研究拠点は、我が国に国際的に開かれた目に見える研究拠点を形成することを目指して2007年度にWPIプログラム委員会によって採択され、2007年10月に発足しました。このたび、2011年10月19日に開催されたプログラム委員会において、これら5拠点に対し発足後4年を機に中間評価が実施されました。

結果は2011年12月14日に文部科学省から発表されましたが、IPMUは中間評価を受けた5拠点の中で唯一、最高のS評価を得ました。その評価基準は『当初目的を超える拠点形成の進展があり、「世界トップレベル研究拠点」としてさらなる発展が期待される』というものであり、所見には『我々の総意として、IPMUの過去4年間の活動と科学的業績を高く評価する。IPMUは、この短期間内にゼロから世界的に名の知られた研究機関にまで発展を遂げた。IPMUは、WPIの目標（最高のサイエンス、国際化、融合研究によるブレークスルー、研究及び組織運営におけるシステム改革）の全てにおいて、その達成に向けて目覚ましく進展したことを示した。村山拠点長のリーダーシップを高く評価する。』と書かれています。同時に、求められる対応と勧告としてIPMUのホスト機関である東京大学に対して『TODIASの設立によって、東京大学はIPMUに一定数のテニユアポジションを用意できる立場となった。プログラム委員会は、IPMUの研究者がそ

の将来を心配し、より安定した職を求めてIPMUを去ることを危惧している。東京大学は、国際的な意味でのテニユアポジションの拠点への導入について考えるべきであると、我々は勧告する。』との指摘がなされています。

なお、今回の中間評価結果全文はhttp://www.jsps.go.jp/j-toplevel/data/08_followup/H22result_j.pdfで公開されています。

本誌35ページの村山機構長によるDirector's Cornerもご覧ください。

1990年ノーベル物理学賞受賞者、J. フリードマン博士講演会

2011年10月6日（木）に東京大学本郷キャンパスの理学部化学館講堂において、IPMUと東京大学国際本部の共同主催、科学技術振興機構の共催により、J. フリードマン博士の「Exploring the Universe at the Largest and Smallest Distances（最大と最小のスケールで宇宙を探究する）」と題する一般講演会が開催されました。フリードマン博士はクオークの発見により、H. ケンドール、R. テイラー両氏と共に1990年のノーベル物理学賞を受賞しました。約200名の聴衆に対し、講演は英語で行われ、司会者の相原博昭さん（理学系研究科教授でIPMU副機構長を兼ねる）が逐次通訳する形式を取りました。

また、この機会にフリードマン博士にIPMU Interviewに登場していただきました。本誌54～60ページをご覧ください。



講演するフリードマン博士

柏キャンパス一般公開2011

2011年10月21日(金)、22日(土)の2日

間、柏キャンパスの一般公開が実施され、IPMUは研究棟においてポスター等による展示の他に、渡利泰山IPMU准教授の講演「素粒子たちの素顔に迫る」、外国人研究者による日本語劇「2011年宇宙の旅」、国立天文台が配布している4次元デジタル宇宙ビューワー“Mitaka”を利用したデジタル宇宙シアター「宇宙旅行に出かけよう」、「祝！2011日本建築学会賞☆研究棟ツアー」などのプログラムで参加しました。キャンパス全体では2日間で約6000人が来場し、IPMUには1700人以上が訪れました。



講演する渡利泰山IPMU准教授

WPI 研究拠点合同シンポジウム「最先端の科学と君たちの未来」

2011年11月12日（土）に福岡市の福岡銀行本店大ホールを会場としてWPIプログラム6拠点合同シンポジウム「最先端の科学と君たちの未来」が開催されました。九州と山口県の中高生を主に一般の方も対象として、WPI研究拠点の研究活動等を紹介するシンポジウムで、2010年度に新たに設置された、九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I2CNER) が主催し、他の5拠点が共催として加わりました。参加者は約600名でした。IPMUからは村山機構長が「宇宙の暗黒面」と題して講演し、また中高生代表者の質問に答えるパネルディスカッションに参加しました。



パネルディスカッションの様子

第5回 IPMU・ICRR合同一般講演会「宇宙を読み解く」

同じ2011年11月12日(土)に東京大学本郷キャンパスの小柴ホールを会場としてIPMUと東京大学宇宙線研究所(ICRR)の第5回合同一般講演会「最高エネルギー宇宙線で宇宙を探る」が開催されました。参加者は約150名でした。IPMUからは高柳 匡(ただし)准教授が「ひも理論で探るブラックホールの謎」について講演しました。



高柳 匡IPMU准教授の講演風景

柏プラネタリウム講演会「加速宇宙の謎に挑む」

2011年11月19日(土)に柏市立図書館本館2階の柏プラネタリウムを会場としてIPMU、柏市中央視聴覚ライブラリー、柏プラネタリウム研究会の共催で、「IPMU講師によるやさしい宇宙の講演会(星空解説付き)」が開催されました。参加者は約40名で、IPMU博士研究員の西道啓博さんが「加速宇宙の謎に挑む」と題して講演を行いました。

女子中高生支援イベント「宇宙をのぞこう!」

2011年11月23日(水)にIPMUに於いて、IPMUとICRR共同主催の女子中高生支援イベント「宇宙をのぞこう!」が開催され、女子中高生約30人が参加しました。このイベントは、女子中高生の理系分野に対する興味や関心を喚起し、理系進学を支援するための取り組みで、IPMU博士研究員、西道啓博さんの講演「加速宇宙の謎に挑む」、ICRR助教、伊藤英男さんの指導による実習「宇宙線の天頂角分布を求めてみよう(理論班)、

測ってみよう(実験班)」、女性研究者のIPMU博士研究員 Alexie Leauthaud (アレクシー・レオト) さんとの懇談などが行われました。



昼食時に参加者と語るアレクシー・レオトさん

科学・技術フェスタ in 京都2011に出展

2011年12月17日(土)、18日(日)の両日、国立京都国際会館において科学・技術フェスタ in 京都2011が開催され、参加者数延べ5000人以上と盛会でした。WPIは全6拠点が出展しました。IPMUはブース一つを専用し、デジタル宇宙シアターなどの映像出展が好評を博し、また暗黒の背景に数式を配置したデザインの特製紙袋1000個を配布しましたが、一つも残らないほどの人気でした。村山機構長は両日ともIPMUブースに詰め、説明役を買って出ました。



IPMUブースを訪れた中川正春文部科学大臣と話す村山機構長



IPMUブースを訪れた古川元久科学技術政策担当大臣と話す村山機構長

宇宙の初代星は太陽の40倍の重さ

宇宙誕生後最初に生まれた星の研究では、これまで「初代星」は太陽の数百倍の重さを持つ巨大な「モンスター星」であると思われてきました。しかし、日本学術振興会海外特別研究員としてNASAジェット推進研究所に滞在中の細川隆史さん、京都大学准教授の大向一行さん、IPMU准教授の吉田直紀さん、NASAジェット推進研究所のハロルド・ヨークさんが原始星から始まり10万年に渡る進化を初めてコンピュータ中に再現したところ、宇宙最初の星の成長は、従来の常識を覆して太陽の重さの40倍程度になると止まることが分かりました。この結果は、論文として2011年11月にScience誌電子速報版に発表され、また同誌334巻1250-1253ページに出版されました。

田中雅臣さん、第28回井上研究奨励賞受賞

IPMU博士研究員の田中雅臣さん(12月1日より国立天文台所属、63ページ人事異動参照)が、博士論文「超新星爆発の三次元構造」により第28回井上研究奨励賞を受賞しました。2012年2月3日に贈呈式が行われます。

人事異動

IPMU博士研究員の田中雅臣さんが国立天文台理論部の助教に転出しました。田中さんは、当初日本学術振興会特別研究員として2009年10月1日-2010年3月31日、引き続きIPMU博士研究員として2010年4月1日-2011年11月30日の間IPMUで研究を行いました。

また、IPMU博士研究員のKenneth Shackletonさんが任期満了で退職しました。IPMU在任期間は2008年10月16日-2011年10月15日でした。